



- プレスリリース -

沖縄科学技術大学院大学の初代学長予定者に
ジョナサン・ドーファン博士を決定

2012 年度の開学に向けて準備を進めている沖縄科学技術大学院大学の初代学長予定者として、米国スタンフォード大学において線形加速器センター所長などの要職を歴任し、研究・マネジメントの両面で高い評価を得てきたジョナサン・ドーファン博士を決定しました。

この度、沖縄科学技術大学院大学学園設立委員は、国際的に著名な物理学者であり米国スタンフォード大学が運営する SLAC 国立加速器研究所（旧スタンフォード線形加速器センター）の名誉所長であるジョナサン・ドーファン博士を 2012 年度開学に向け準備中の沖縄科学技術大学院大学の初代学長予定者に選出しました。ドーファン博士の学長就任により、同博士の長年にわたる世界トップレベルの研究所の所長等としてのマネジメント経験と、国際共同プロジェクトを主導してきたリーダーとしての手腕が、大学院大学にもたらされることとなります。

ドーファン博士は、1976 年に米国カリフォルニア大学アーバイン校にて素粒子物理学に関する研究で博士号を取得後、スタンフォード大学で 30 年以上にわたって勤めました。1999 年～2007 年にはスタンフォード線形加速器センター（SLAC）の所長を務め、1,500 名の教職員を統括するとともに、25 カ国から集まったおよそ 3,000 名の科学者が参画する研究プロジェクトを束ねました。同博士の卓越したマネジメントの手腕により、かつては主に単一の研究目的のみにしか利用されていなかった素粒子実験施設を、素粒子物理学に加え、光量子科学や粒子宇宙物理学等あらゆる研究目的に活用される世界的にも有名な研究施設に生まれ変わらせました。ドーファン博士がディレクターとして主導した SLAC の B Factory での実験は、姉妹施設である高エネルギー加速器研究機構の B-factory（茨城県つくば市）での実験とともに、益川敏英博士や小林誠博士の理論を実証し、両氏に 2008 年ノーベル物理学賞受賞をもたらすとともに、素粒子物理学の発展に貢献しました。

現在、ドーファン博士は、英国のオックスフォード大学及びロンドン大学ロイヤルホロウェイ校、ドイツのマックスプランク研究所、イスラエルのワイツマン科学研究所等、世界の数多くの著名な大学・研究機関にアドバイザーや理事等の立場から参画しています。同博士は、これまでのキャリアを通じて国際的な科学者との幅広く多様なネットワークを築き、日本の著名な科学者達とも親交を深めてきました。

この初代学長予定者の選考は 1 年以上をかけて慎重に進められてきました。学術誌やホームページを通じた公募、設立委員のネットワーク等により、世界中から国籍や性別を問わず、研究・マネジメントの両面で優れた合計 160 名を候補者として抽出し、その中から設立委員による面接等を経て、最終的にドーファン博士が選ばれました。

設立委員は、今後、ドーファン博士に、世界中の卓越した教員・学生の獲得、カリキュラムの策定、さらには現在進みつつある世界規模の学術的連携や産業界との連携関係の構築に、大いに貢献していただけるものと確信しています。また、同博士の地域社会との積極的な交流活動を通じて、この大学院大学が沖縄の将来の発展に寄与するものとなることを期待しています。

ドーファン博士の略歴については、別紙をご参照ください。

沖縄科学技術大学院大学及び独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構について

沖縄科学技術大学院大学は沖縄科学技術大学院大学学園法に基づき開学準備が進められている新しい大学院大学で、沖縄において世界最高水準の科学技術に関する教育研究を行い、沖縄の自立的発展と世界の科学技術の向上に寄与することを目的としています。同法は、大学院大学の自主性と運営の柔軟性を尊重する観点から、同大学を特別な学校法人により設置されるものとし、また、国が同大学に対し安定的な支援を行うことができるものとしています。文部科学大臣への学校法人設立・大学設置の認可申請は平成23年3月に行う予定です。

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構は、沖縄において卓越した科学技術の研究を行うため、また、世界最高水準の国際的な大学院大学を設立する準備のため、平成17年9月に設立されました。理事長はシドニー・ブレナー博士（2002年ノーベル生理学・医学賞受賞）です。現在までに24の研究ユニット（研究者約170名）が発足し、神経科学、分子科学、数学・計算科学、環境科学の4分野において、学際的な研究活動を展開しています。また、国際ワークショップやコースの開催など、学生や若手研究者の育成にも力を入れており、これらの取組は国際的にも認知されています。機構は、2012年秋の大学院大学の開学（学生受入れ）に向け、こうした活動をさらに拡充していくこととしています。

沖縄科学技術大学院大学学園設立委員

沖縄科学技術大学院大学学園設立委員は、沖縄科学技術大学院大学学園法に基づき、世界最高水準の大学院大学の実現に向けた設立準備業務を行うものであり、平成21年9月1日に内閣総理大臣によって以下の9名が任命されました。学長の人選は、文部科学大臣への認可申請に必要となる設立準備のための最重要事項の一つです。

ありま あきと
有馬 朗人

財団法人日本科学技術振興財団会長、武蔵学園長、
ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム会長

ジェローム・フリードマン

マサチューセッツ工科大学教授（1990年ノーベル物理学賞受賞）

ティム・ハント

英国がん研究所主席科学者（2001年ノーベル生理学・医学賞受賞）

かなざわ いちろう
金澤 一郎

日本学術会議会長、東京大学名誉教授、皇室医務主管

くろかわ きよし
黒川 清

政策研究大学院大学教授、東京大学名誉教授、
前内閣特別顧問（科学、技術、イノベーション担当）、前日本学術会議会長

り えんてつ
李 遠哲

台湾中央研究院名誉会長（1986年ノーベル化学賞受賞）

しょう ひろこ
尚 弘子

琉球大学名誉教授、元沖縄県副知事

とねがわすすむ
利根川 進

マサチューセッツ工科大学教授（1987年ノーベル生理学・医学賞受賞）
独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター長

トーステン・ヴィーゼル

ロックフェラー大学名誉学長（1981年ノーベル生理学・医学賞受賞）

ジョナサン・ドーファン博士 略歴



ジョナサン・ドーファン博士

専門: 物理学、加速器科学

学歴:

1969年 南アフリカケープタウン大学 物理学・応用数学 理学士号取得

1976年 米国カリフォルニア大学 アーバイン校 素粒子実験物理学 博士号所得

職歴

1989年-現在 スタンフォード線形加速器センター 教授

1994-1999年 スタンフォード線形加速器センター 副所長

1999-2007年 スタンフォード大学 エグゼクティブキャビネットメンバー

1999-2007年 スタンフォード線形加速器センター 所長

2007年-現在 SLAC 国立加速器センター (スタンフォード線形加速器センター) 名誉所長

2007-2008年 スタンフォード大学 学長特別補佐

他の主要なポジション:

ワイツマン科学研究所 (イスラエル) 理事

ワイツマン科学研究所 (イスラエル) 理事会、科学アドバイザーコミッティ共同代表

SuperB 計画、マシンアドバイザーコミッティ (イタリア) 代表

米国 Large Synoptic Space Telescope 会社 理事会副代表

米国物理学会、広報部門パネルメンバー副代表

英国オックスフォード大学ジョンアダムス加速器科学研究所・ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校アドバイザーボードメンバー

TRIUMF 国立研究協議会 (カナダ) アドバイザーコミッティメンバー

独国マックスプランク物理研究所、科学アドバイザーボードメンバー

国際リニアコライダー (ILC) 国際共同設計チーム (GDE) (多国籍協力プロジェクト) 加速器アドバイザーコミッティメンバー

受賞等:

ドレスデン技術大学 (ドイツ) 名誉博士号

ケープタウン大学 (南アフリカ) 名誉博士号

ニューヨーク科学アカデミー会員

米国科学アカデミーフェロー

米国物理学会フェロー

【本件問合せ先】

独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構

総務グループ コミュニケーション・広報課 広報担当: 名取 薫

電話: (代表) 098-966-8711 (直通) 098-966-2389 FAX : 098-966-2152

E-mail: kaoru.natori@oist.jp OIST ウェブサイト: <http://www.oist.jp>

沖縄科学技術大学院大学の学長予定者の決定について
[内閣府特命担当大臣談話]

平成22年7月9日

スタンフォード大学線形加速器センター（SLAC）名誉所長・教授のジョナサン・ドーファン博士が沖縄科学技術大学院大学の学長予定者として決定されたことが、本日、設立委員会合の有馬・ヴィーゼル共同議長によって発表されました。

ドーファン博士は、私もお会いしたことがありますが、世界最高水準の基礎研究の拠点であるSLACの所長を務められ、実験を通じて、2008年にノーベル物理学賞を受賞された益川敏英・小林誠両博士の理論の実証を主導されるなど、科学技術の発展において顕著な功績を挙げられました。

また、組織マネジメントにおいても、将来ビジョンの提示や研究者の採用、研究環境の構築といった点で高い評価を受けており、日本の研究者も含め、世界的なネットワークを持っておられます。

さらに、私がお会いした際には、大学は地域社会に貢献し、共に発展していかなければならないと述べられたことが印象に残っています。

沖縄は歴史面でも地理面でもアジアの結節点となる潜在能力を秘めています。この大学院大学は、こうした沖縄の自立的発展や世界の科学技術の発展を目的として推進されてきた重要な国家プロジェクトです。

私は、この大学院大学が、世界最高水準のものとなり、また、そのような大学院大学が沖縄にあることが沖縄県民の自信と誇りとなるよう支援していきたいと考えています。さらには、沖縄に住む子ども達が、この大学院大学を目指して勉強し、この大学院大学で学ぶことで、沖縄から優秀な人材がさらに多く生まれるよう期待しています。

ドーファン博士が大学院大学の学長予定者として決定されたことは、このプロジェクトにとって大きな一歩です。政府としては、引き続き、世界最高水準の大学院大学の実現に向けて、確固たる支援を行ってまいります。

内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）
前原 誠司